

一番茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証

〔分野〕	畑作・地域作物
〔分類〕	実証研究型
〔研究代表機関〕	（研）農研機構果樹茶業研究部門（金谷）（地域戦略（茶輸出防除）コンソーシアム）
〔参画研究機関〕	静岡県農林技術研究所茶業研究センター、京都府農林水産技術センター茶業研究所、福岡県農林業総合試験場八女分場、宮崎県総合農業試験場茶業支場、鹿児島県農業開発総合センター茶業部
（普及担当機関）	静岡県中遠農林事務所（協力機関）、京都農林水産技術センター農林センター茶業研究所（兼務）、福岡八女普及指導センター（協力機関）、JAふくおか八女（協力機関）、宮崎東臼杵農林振興局（協力機関）、鹿児島県南薩地域振興局（協力機関）
〔研究・実証地区〕	静岡県菊川市、京都府京田辺市、福岡県八女市、宮崎県延岡市、鹿児島県南九州市 等

I 目指す地域戦略と研究の背景・課題

1. 地域戦略の概要

日本茶の輸出促進による地域茶業の振興を図るため、我が国の主要5茶産地（静岡、京都、福岡、宮崎、鹿児島）で、輸出相手国の残留農薬基準（MRL）に対応した病害虫防除体系（それぞれ輸出想定国・茶種別）の構築と普及を目的とする地域戦略が策定されている。

2. 研究の背景・課題

2013年に閣議決定された日本再興戦略では、日本茶の輸出を2020年までに150億円に拡大する目標が掲げられている。しかし、輸出重点各国のMRLは、国によって異なる上に我が国の基準と比べて極めて厳しい場合も多く、これが日本茶輸出の大きな障壁となっている。一方、我が国の茶産地では、産地の特徴を活かした様々な茶種向けのチャ栽培が行われており、産地により輸出想定国も異なる。そこで、各茶産地が、それぞれの産地に適した輸出想定国向け・茶種別の病害虫総合防除体系を構築・実装することで、輸出相手国のMRLに対応した輸出用茶葉の安定生産体制を確立する必要がある。

II 研究の目標

全国に設置した5つの実証チーム全てで、輸出相手国のMRLに対応した国別・茶種別の病害虫防除体系（静岡；米国/EU国向け煎茶（一番茶）、京都；EU/米国向け碾茶・抹茶、福岡；台湾/EU向け玉露、宮崎；EU/米国向け釜炒り茶、鹿児島；米国向けかぶせ茶・煎茶）を確立・普及する。これらにより、2020年までに輸出可能な日本茶の生産を150億円（2015年比50%増）とする。

III 研究計画の概要

1. 輸出相手国のMRLに対応した農薬の合理的利用技術の確立

我が国で生産される茶における各種農薬成分の残留状況を広く調査し、実態を解明する。また、主要農薬成分の減衰特性を把握し、輸出向け茶葉生産に利用できる各種農薬類の適正利用技術を開発する。～農研機構果樹茶（金谷）ほか

2. 日本茶（一番茶）の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証

我が国の主要5茶産地の特産茶種について、それぞれの産地が想定する輸出相手国別の病害虫防除体系をそれぞれ構築し、現地圃場等でこれらを実証する。各茶産地（実証チーム）が対象とする特産茶種は以下のとおり。

（1）静岡：煎茶（一番茶）～静岡茶研センターほか、（2）京都：碾茶・抹茶～京都農技セ茶研ほか、（3）福岡：玉露～福岡農林試八女ほか、（4）宮崎：釜炒り茶～宮崎総農試茶支ほか、（5）鹿児島：煎茶・かぶせ茶～鹿児島農総セ茶業部ほか

3. 輸出対応型病害虫防除体系の高度化素材技術の開発・確立

各茶産地が茶種別・輸出相手国別の輸出用病害虫防除体系を構築する際に特に障害となる害虫の対処法を開発し、各茶産地が構築・実証・実装する輸出用病害虫防除体系の高度化を図る。各茶産地の対象害虫は以下のとおり。

（1）チャトゲコナジラミ（侵入新害虫対策のモデルケース、他害虫との同時防除法による効率的な管理技術開発）～静岡茶研センター、（2）チャエダシヤク（自然仕立園で特異的発生するマイナー害虫の生態解明と効率的防除技術の開発）～京都農技セ茶研、（3）コミカンアブラムシ（台湾向けの覆い下栽培を対象とした効果的防除技術の開発）～福岡農林試八女、（4）クワシロカイガラムシ（対象農薬の投下量が大きい本種についての農薬代替防除法の高度化技術を開発）～宮崎総農試茶支、（5）チャノホソガ（産卵・発生生態と被覆時期のタイミングの解析及び、効果的薬剤使用法の検討）～鹿児島農総セ茶業部

4. 日本茶（一番茶）の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の普及支援

各産地（実証チーム）が構築した輸出相手国別・茶種の病害虫防除体系を評価・検証するとともに、普及指導機関等の協力を基に現地への実装化を図る。各茶産地（実証チーム）が対象とする茶種は以下のとおり。

（1）静岡：煎茶（一番茶）～静岡中遠農林事務所ほか、（2）京都：碾茶・抹茶～京都農技セ茶研ほか、（3）福岡：玉露～福岡八女普及指導センター/JAふくおか八女ほか、（4）宮崎：釜炒り茶～宮崎東臼杵農林振興局ほか、（5）鹿児島：煎茶・かぶせ茶～鹿児島南薩地域振興局ほか、（6）輸出対応型防除体系の評価と検証～農研機構果樹茶（金谷）ほか

一番茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証

各茶産地に適した輸出相手国・茶種別の輸出用防除体系を構築・検証し、生産現場に実装する。

地域戦略提案5府県

静岡、京都、福岡、宮崎、鹿児島に【実証チーム】設置

【研究項目】

- ◆各産地に適した輸出相手国・茶種別の防除体系を構築・実証
- ◆産地や茶種固有の問題に対処し、輸出用防除体系を高度化

代表機関

(研) 農研機構果樹茶業研究部門 (金谷)

- 【研究実施場所】静岡県島田市/鹿児島県枕崎市/他
 【研究項目】◆残留農薬の実態解明、◆輸出用茶栽培における農業の合理的利用法の確立、◆実証体系の検証

① 農薬残留試験・病害虫効果試験

② 防除効果・残留農薬程度等の情報共有

【静岡実証チーム】	【京都実証チーム】	【福岡実証チーム】	【宮崎実証チーム】	【鹿児島実証チーム】
共同研究機関	共同研究機関	共同研究機関	共同研究機関	共同研究機関
静岡茶研センター	京都農技セ茶研	福岡農林試八女	宮崎総農試茶支	鹿児島農閑総セ茶業部
【研究実施場所】 静岡県菊川市	【研究実施場所】 京都府京田辺市	【研究実施場所】 福岡県八女市	【研究実施場所】 宮崎県延岡市	【研究実施場所】 鹿児島県南九州市
【研究項目】 ◎米国/EU向け煎茶（一番茶）用防除体系の構築・高度化	【研究項目】 ◎EU/米国向け碾茶・抹茶用防除体系の構築・高度化	【研究項目】 ◎台湾/EU向け玉露用防除体系の構築・高度化	【研究項目】 ◎EU/米国向け釜炒り茶用防除体系の構築・高度化	【研究項目】 ・米国向けかぶせ・煎茶用防除体系の構築・高度化
協力機関	協力機関	協力機関	協力機関	協力機関
・静岡中遠農林事務所（普及担当機関） ・JA遠州夢咲（JA:実証圏）	・京都農技セ茶研（普及担当機関兼務） ・茶農家A・B・C（農業者：実証圏）	・福岡八女普及指導センター/JAふくおか八女（普及担当機関） ・茶農家D（農業者：実証圏）	・宮崎東臼杵農林振興局（普及担当機関） ・茶農家E（農業者：実証圏）	・鹿児島南産地振興局（普及担当機関） ・茶生産組合F（茶生産組合：実証圏）

オールジャパン

各産地で、茶種・輸出国別の防除体系を構築・実証



一斉分析等の依頼



輸出用防除体系の構築・検証

【静岡実証チーム】

- 2-(1) 煎茶（一番茶）の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証
- 3-(1) 侵入害虫チャトゲコナジラムの効率的防除対策の開発
- 4-(1) 煎茶（一番茶）の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の普及支援

【京都実証チーム】

- 2-(2) 碾茶・抹茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証
- 3-(2) チャエダシヤクの生態特性の解明と効果的防除技術の開発
- 4-(2) 碾茶・抹茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の普及支援

【福岡実証チーム】

- 2-(3) 玉露の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証
- 3-(3) コミカンアブラムシの生態特性の解明と効果的防除技術の開発
- 4-(3) 玉露の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の普及支援

【鹿児島実証チーム】

- 2-(5) 煎茶・かぶせ茶の輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証
- 3-(5) チャノホソガの生態特性の解明と効果的防除技術の開発
- 4-(5) 煎茶・かぶせ茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の普及支援

各実証チームが構築した防除体系の検証（MRL分析）

(研) 農研機構 果樹茶業研究部門

- 1-(1) 農薬の残留実態の調査・解析
- 1-(2) 農薬の減衰特性の解明と合理的利用技術の開発
- 4-(6) 輸出対応型防除体系の評価と検証

【宮崎実証チーム】

- 2-(4) 釜炒り茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証
- 3-(4) クワシロカイガラムシの高度散水防除技術の開発
- 4-(4) 釜炒り茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の普及支援

産地実装

茶の海外輸出

鹿児島



京都



静岡



福岡



宮崎

